

50周年を迎えた岩手県ことばを育む親の会

子どもたちのことばを

「ことば」の教育環境を整える

常に子どもを真ん中にして

岩手県ことばを育む親の会（主濱友子会長、会員約1,100名、28支部）以下、親の会は、1965年に岩手県言語障害児を持つ親の会として結成以来、「ことば」「きこえ」「幼児」の教室開設運動を続け、2013年に県内全ての市町村に「ことばの教室」を開設しました。

全市町村に「ことばの教室」があ

る都道府県は他にありません。

親の会はこの半世紀の間、常に子どもを真ん中にして、子どもと親、教師の3者が信頼関係を持ちながら、子ども達が適切な指導を受けられるよう、教育環境を整えてきました。同時に親同士が悩みを打ち明け合い、励まし合い、学び合う活動に積極的に取り組んできました。

親の会では50年の歩みを新たなステップの土台と捉えています。その



「サマーキャンプin雫石」での親の会の分科会



ビジターセンターでの子ども達の体験活動

中の一つ「サマーキャンプ」について紹介します。

「サマーキャンプin雫石」

親の会の親子合宿研修会「第39回サマーキャンプin雫石」（7月25日～26日）は、子ども・保護者・教師・実行委員会スタッフら合わせて129人が参加し、休暇村 岩手網張温泉を会場に開かれました。

サマーキャンプは「子ども達が自然とふれあい、集団生活の中で社会生活への適応力を高める」「親同士が日頃かかえている悩みを語り合い、悩みを軽減し、交流を通してより良い子育てについて考える」ことを狙いとしています。

キャンプ初日、親たちが「ことば」「はったつ」「きつおん」「きこえ」の各分科会に分かれて、日頃の悩みをじっくりと語り合いました。県内の教室でことばの指導にあたる教諭も助言者・司会者・記録者として、分科会の中で様々な質問に応じました。その間、子ども達はグループに分

かれて網張ビジターセンターなどを見学しました。雨天のため「網張の森」の散策はできませんでしたが、普段は個別の学習が中心であるだけに、集団の中で楽しさを分かち合い、それぞれが自信を育んだ様子でした。

宮古支部から参加した母親（34）は「家庭でできることばの訓練など様々なアドバイスを頂きました。また、親同士の話し合いは安心感と子育ての自信につながりました」。

滝沢支部から参加した母親（34）は「ことばの苦手な子ども達が生き生きと学ぶには、地域の理解がとても大切です。支援を必要とする子ども達に必要な支援が届くよう、親の会だからこそできる活動をした」と話していました。

「サマーキャンプ」では深谷政光雫石町長、岩手県難聴言語障がい研究会の深田好昭会長らの祝辞のほか、認定NPO法人劇団ゆうの菊田第一理事長の講演「わくわく生きる力」、団員によるミュージカル「ピーターパン」を鑑賞しました。

岩手県ことばを育む親の会の歩み

1965	岩手県言語障害児を持つ親の会（以下、親の会）結成
1967	釜石市立大渡小学校に県下初の「ことばの教室」を開設
1968	第1回親の会大会（盛岡市）
1972	釜石市立大渡小学校に県下初の「きこえの教室」を開設
1975	親の会10周年記念大会（釜石市）
1976	盛岡市立下橋中学校に「きこえの教室」を開設
1982	釜石市立大渡小学校、盛岡市立桜城小学校、北上市立黒沢尻東小学校に県下初の「幼児教室」を開設
1985	親の会20周年記念大会（盛岡市）
1991	第14回全国言語障害児をもつ親の会大会岩手大会（盛岡市）
1995	親の会30周年記念大会（釜石市）
2001	「岩手県難聴・言語障害児をもつ親の会」に名称を変更
2003	「岩手県ことばを育む親の会」に名称を変更全国難聴児をもつ親の会第29回全国研修会岩手大会（盛岡市）※平成16年3月開催
2005	岩手県ことばを育む親の会40周年記念大会（盛岡市）
2006	盛岡市立津志田小学校、花巻市立若葉小学校、奥州市立水沢小学校、一関市立南小学校に県下初の「LD等通級指導教室」を開設
2013	全市町村に「ことばの教室」を開設
2015	岩手県ことばを育む親の会結成50周年記念大会（盛岡市）

●岩手県ことばを育む親の会事務局
盛岡市立桜城小学校きこえとことばの教室内



岩手県ことばを育む親の会
主濱友子会長

親の会は先生と親との両輪で「ことば」に関わる教育の充実を図ります

先

ごろ新会長に就任したばかりですが、改めて「ことばの教室」設置運動を地道に続けてきた親の会の方々、県内初の「ことばの教室」の担任でもあり、最後のことばの教室設置まで関わってくださいました菊池義勝先生をはじめとする、先達の皆様方の熱意と努力に感謝しています。

親の会の役割は「誰でも、いつでも、どこでも」ことばに関わる適切な教育を受けられるよう、教育委員会などに働きかけ、教育環境を整備していくことです。また、親同士の悩みを軽減しながら、より良い子育てについて交流し合うことも大きな役割でもあります。

「ことば」の教室を取り巻く課題は山積しています。例えば、市町村



合併により教室までの距離が遠くなったことで、通級できない児童もいます。他校にある「きこえやことばの教室」に「通級」するため、仕事を休まざるを得ない保護者もいます。

親の会では、保護者が安心して通級できる体制を確立するために「巡回指導」「通級費用の補助」など、各地域の実態に応じた活動に取り組みたいと思います。

また、支援を必要とする子どもは、県内各地域にあります。親の会では早期発見・早期治療を促進するために「幼児ことばの教室」の設置を働きかけていきます。

東

日本大震災から約4年半が経過しましたが、未だ仮校舎の「教室」に通う児童も多数おり、一日も早い教室環境の整備を働きかけるなど、各地域に応じたきめ細やかな活動を進めていきたいと思っています。子どものことばを育てるために。

県内の97施設に設置

桜城小学校の「きこえとことばの教室」には、41人が通級

4人の教諭が一人ひとりの様子に応じて指導

県内には97の施設に、ことばの教室が86教室、きこえの教室が26教室、幼児教室が26教室設置されています。（LD等通級指導教室は14教室）

「ことばの教室」では主として発音の練習や音の聞き分け、「きこえの教室」では発音のほかに会話や各教科の学習から聞くことや語彙を学び、「幼児教室」では園児たちが遊びや会話の中から言葉を学習しています。

盛岡市立桜城小学校の2階にある「きこえとことばの教室」には、40人の子どもたちが通級しています。そのうちの15人が同校以外の学校から通級している児童です。指導時間は45分。時間割に合わせて入室し、4人の教諭が一人ひとりの様子に応じて指導しています。



桜城小学校「きこえとことばの教室」で発音の練習をする児童と堺秋子指導教諭

「これから言葉の勉強を始めます」。保護者が見守る中、2年生男児の元気な声が教室に響きます。児童は担当の堺秋子指導教諭と一緒に鏡付きの机の前に座ると、夏休みの出来事を話します。「楽しい夏休みを過ごしましたね」という先生の言葉に児童は笑顔で頷きます。

「あ、い、う、え、お」。発音の練習が始まると、児童は鏡に映る先生の口の形や舌の位置を確認しながら復唱します。正しく発音できたことを褒められると再びの笑顔。誇らしげでもあります。

「一生懸命に頑張る姿、成長していく姿に、一人ひとりの可能性を感じます。できるようになりたいと思う気持ちは、大人と同じです」と堺指導教諭。

授業を終えた2年生男児の親御さんは「子どもは先生を信頼し、授業の日を楽しみにしています。夏休みに家族でデイズニールランドに出かけたことを嬉しそうに話す姿を見て、とても積極的になったと感じました」と笑顔で話しています。

授業を終えた児童は、ことばの教室の職員室の前に立ち、「勉強が終わったので帰ります。ありがとうございました」と元気に一礼しました。